

令和5年度 日野市立日野第二中学校経営重点計画				自己評価シート				令和6年3月公表			
★学校教育目標				○自主・自律の精神を養おう ○思いやりのある豊かな心を育てよう ○心身ともに健康な身体をつくろう				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）				○基礎基本の定着を図り、学力向上への環境を充実させる ○心と体の健康を育む「生き方教育」を充実させる ○生徒の個性を伸ばす特別活動を充実させる ○教員の資質向上を図る							
【めざす児童・生徒像】				＊正しい判断力ができる生徒 ＊自主的に行動できる生徒 ＊思いやりの心で他につくす生徒 ＊ひたむきに努力できる生徒							
【めざす学校像】				＊安全、安心な学校 ＊丁寧で迅速な対応のできる学校 ＊切磋琢磨して成長できる学校 ＊社会の変化に対応できる学校							
【めざす教師像】				＊心の教育を推進する教師 ＊愛情をもって教育にあたる教師 ＊自ら研鑽できる教師 ＊保護者、地域等との連携を深め、深基できる教師							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
多様な学 び	学力向上への環境整備	生徒が学びに向かう姿勢を引き出し、知識・技能を高める過程で、思考力、判断力、表現力を駆使する授業を模索させる。	①教職員がユニバーサルデザインの視点を持ち、生徒自身で学習環境を構築できる授業改善を促す。 ②生徒の発言や活動を授業時間の51%以上にし、プレゼンテーションの機会を多くさせる。 ③一人一台端末を効果的に活用させる。 ④教育課程を進行していくうえで、指導と評価の一体化、ならびにカリキュラムマネジメントの意識を高くもたせる。	4	4	80%以上の教員が、指導と評価の一体化と授業改善に取り組めた。	4	4	生徒アンケートで、80%以上の人が、落ち書いて学習に取り組み、学校生活を楽しいと答えている。	・PC端末の利用に重点を置くことで、タブレットを有効的に活用し、授業がわかりやすく展開されている。また一人ひとりが積極的に、集中して学習に取り組めている。 ・端末を使いこなしつつも、文字を書く習慣も忘れず身につけてほしい。一人1台の端末活用で生徒の差がつかないような工夫も必要である。	・通年、各教科の授業において、ICT機器を活用した授業を実施することができた。教員間でまだ差異があるので教職員のスキルアップが今後の課題である。また生徒自身も端末を積極的に活用しプレゼンテーション能力を高めている。学校評議員の意見からもあるように端末使用で生じる課題を解決させた教育を充実させていく。
					3	65%以上の教員が、指導と評価の一体化と授業改善に取り組めた。。		3	生徒アンケートで、65%以上の人が、落ち書いて学習に取り組み、学校生活を楽しいと答えている。		
					2	50%以上の教員が、指導と評価の一体化と授業改善に取り組めた。		2	生徒アンケートで、50%以上の人が、落ち書いて学習に取り組み、学校生活を楽しいと答えている。		
					1	指導と評価の一体化と授業改善に取り組めた教員が、50%未満であった。		1	生徒アンケートで、落ち書いて学習に取り組み、学校生活を楽しいと答えている人が50%未満であった。		
多様な学 び	キャリア教育の充実	義務教育終了後、社会へ出るための準備活動を実践する。	①進路選択だけに偏らない、将来の見通しのもてる指導を推進する。 ②小学校と連携し、9年間の繋がりを重視させる。 ③有識者を積極的に招聘し、来校までのマネジメントを行う。 ④キャリア教育のまとめとして学習発表会を実施する。	3	4	80%以上の教員が、教育活動全般でキャリア教育に取り組めた。	3	4	生徒アンケートで、80%以上の人が、自分の特徴を知り、将来について考えることができたと言っている。	・年間行事として、外部有識者を招いている。子供たちの将来に有意義である。会話の中で将来について話している子もあり、見通しをもって取り組む子が増えている。 ・社会性を身につける職業体験や多様な大人の話を聞くことで、将来の進路に活かしている。また体験・調べ学習ともに充実した機会となっている。	・年間を通じて、職場体験や職業講話、上級学校の先生による講話、専門家による体験授業等、様々な活動に取り組むことができた。ある程度、将来のビジョンももてる生徒は充実しているが、見通しがつかない生徒にどのように指導するか、自身で考えるためにどうするかを今後教職員が指導内容を確立させていくことが課題である。
					3	65%以上の教員が、教育活動全般でキャリア教育に取り組めた。		3	生徒アンケートで、65%以上の人が、自分の特徴を知り、将来について考えることができたと言っている。		
					2	50%以上の教員が、教育活動全般でキャリア教育に取り組めた。		2	生徒アンケートで、50%以上の人が、自分の特徴を知り、将来について考えることができたと言っている。		
					1	教育活動全般でキャリア教育に取り組めた教員が、50%未満であった。		1	生徒アンケートで、自分の特徴を知り、将来について考えることができたと言っている人が、50%未満であった。		
多様な学 び	特色ある教育活動の推進	学校2020レガシーを浸透させる。	①アスリートを積極的に招聘し、講演や指導実践から、生徒の生涯スポーツの基盤づくりになるような機会をつくる。 ②インクルーシブに特化した活動を年に数回行わせる。 ③ホームページで学校の取り組みを積極的に発信する。	4	4	80%以上の教員が、生徒の主体的、表現的な活動を支援できた。	4	4	保護者アンケートで、80%以上の人が、学校は特色ある教育活動の実現を目指していると言っている。	・多方面で活躍する多くのアスリートを毎年招いて有意義な授業を行っている。特に二中はアスリートの講演だけでなく、実技指導も受けられることに對して、とても良い経験になっている。講演や体験する機会がとても多く生徒たちも喜んでいる。二中は特色ある経営されている。生徒たちの感じたことを知りたい。	・学校2020レガシー教育は校長の打ち出している本校の特色であり、生徒の中でスポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと活動できる特色ある教育活動となった。生徒の生涯スポーツの基盤づくりになるような機会を十分につくることができた。生徒から感想をとり、それを反映させて次年度にいかして飛躍させていく。
					3	65%以上の教員が、生徒の主体的、表現的な活動を支援できた。		3	保護者アンケートで、65%以上の人が、学校は特色ある教育活動の実現を目指していると言っている。		
					2	50%以上の教員が、生徒の主体的、表現的な活動を支援できた。		2	保護者アンケートで、50%以上の人が、学校は特色ある教育活動の実現を目指していると言っている。		
					1	生徒の主体的、表現的な活動を支援できた教員が、50%未満であった。		1	保護者アンケートで、学校は特色ある教育活動の実現を目指していると言っている人が、65%未満であった。		
心の教育	生活指導の充実	傾聴と共感を基本に、多様性への理解を高め、人権に配慮した指導を実践させる。	①指導より対話を重視させる。 ②アンガーマネジメントの手法を取り入れる。 ③「いじめ防止対応チーム」を機能させる。 ④「不登校対応チーム（FCT）」を機能させる。 ⑤あらゆる差別、偏見をなくす指導体制を構築する。	4	4	80%以上の教員が、多様性への理解を背景に、生徒の豊かな心の醸成に取り組めた。	4	4	生徒アンケートで、80%以上の人が、自分や他人を大切にしようという気持ちが強くなったと言っている。	・不登校対策を積極的に行っている。生徒アンケート等いじめ対策はきちんとされている。小さなめ事はあっても大きないじめはないように思う。 ・いろいろな考え方・生き方があることを伝えて頂けたらよい。自らを大切にしつつ、相手の立場にたって冷静に物事を考えられるよう対話を通して経験を重ねてほしい。	・生徒対応として対話を重視し生活指導にあたることができた。学校生活に高いアンテナをはり、人権に配慮しながら対応していくことが今後も必要である。今年度より、不登校生徒に対して「不登校対応チーム（FCT）」を設け機能させることができた。今後はどの機関にも継続的に関わりをもっていない生徒がいないようにFCTを中心に働きかけをしていく。
					3	65%以上の教員が、多様性への理解を背景に、生徒の豊かな心の醸成に取り組めた。		3	生徒アンケートで、65%以上の人が、自分や他人を大切にしようという気持ちが強くなったと言っている。		
					2	50%以上の教員が、多様性への理解を背景に、生徒の豊かな心の醸成に取り組めた。		2	生徒アンケートで、50%以上の人が、自分や他人を大切にしようという気持ちが強くなったと言っている。		
					1	多様性への理解を背景に、生徒の豊かな心の醸成に取り組めた教員が、50%未満であった。		1	生徒アンケートで、自分や他人を大切にしようという気持ちが強くなったと言っている人が50%未満であった。		
特別支援教育	特別支援教育の充実	自己肯定感や自己有用感を高める指導を構築させる。	①学校行事等で特別支援学級への配慮を盛り込ませ、通常学級との日常的な交流を有用な機会とさせる。 ②校内特別支援委員会を機能させ、SCやSSWとの連携の強化を図る。 ③リソースルーム、ステップ教室との連携をとり、生徒の特性に応じた指導を実践させる。	3	4	80%以上の教員が、生徒の実態を把握し、適切な指導に取り組めた。	3	4	生徒・保護者アンケートで、80%以上の人が、悩みや相談に応じてくれると答えている。	・一人ひとりによりそう教育ができることはよい。差別のない学校であってほしい。特別支援クラスの生徒も体育祭や合唱祭等、交流クラスでの参加ができるよう先生方の励まし、バックアップが素晴らしかった。 ・今後は自らがもっている能力を引き出し認められることに喜びを感じるよう、さらに指導をいただきたい。	・生徒や保護者に信頼される学校づくりを目指し、個の悩みや相談に応じられる指導体制の改善を図っていくために、本校ではリソースルームやステップ教室（特別支援教室）につなげることで、適切な指導に取り組めた。特別支援学級では、多様化する生徒実態に対して、さらなる個別支援体制の充実が必要である。
					3	65%以上の教員が、生徒の実態を把握し、適切な指導に取り組めた。		3	生徒・保護者アンケートで、65%以上の人が、悩みや相談に応じてくれると答えている。		
					2	50%以上の教員が、生徒の実態を把握し、適切な指導に取り組めた。		2	生徒・保護者アンケートで、50%以上の人が、悩みや相談に応じてくれると答えている。		
					1	生徒の実態を把握し、適切な指導に取り組めた教員が、50%未満であった。		1	生徒・保護者アンケートで、悩みや相談に応じてくれると答えている人が、50%未満であった。		
学校経営	教職員の資質・能力の向上	レジリエンスをテーマとして、生徒、保護者、地域に対して迅速丁寧な対応を行わせる。	①運営委員会や分掌部会を要に、適切な報告連絡相談が行われる体制を整える。 ②経験年数に応じたキャリアプランを構築させる。 ③相談しやすい環境、新たなチャレンジを称賛するために、教職員との積極的な対話を試みる。	3	4	80%以上の教員が、日常の立ち振る舞いと教育環境の整備を意識して職務に取り組めた。	3	4	生徒・保護者アンケートで、80%以上の人が、教員が正しい言葉遣いで生徒指導を行っていると言っている。	・先生方の授業の姿勢が生徒にも伝わっており、素晴らしく今後も頑張ってもらいたい。一生懸命頑張っている先生方に頭が下がるばかりで、保護者に対しても対応が良くとても評判がよい。 ・校内研修などで、若い先生のサポート、相談がしやすい環境とても良いと思う。教員同士のコミュニケーション共有も大切にいただきたい。	・各分掌主任による運営会議や企画調整会議を通して、組織的で効率的な学校運営を図ることができた。また決定事項や問題が生じた場合、報告連絡相談を周知徹底することで、円滑な体制を維持することができた。日々の職務及び職員研修を通じ、その資質能力が育成されている成果として、教職員の取組に改善がみられている。
					3	65%以上の教員が、日常の立ち振る舞いと教育環境の整備を意識して職務に取り組めた。		3	生徒・保護者アンケートで、65%以上の人が、教員が正しい言葉遣いで生徒指導を行っていると言っている。		
					2	50%以上の教員が、日常の立ち振る舞いと教育環境の整備を意識して職務に取り組めた。		2	生徒・保護者アンケートで、50%以上の人が、教員が正しい言葉遣いで生徒指導を行っていると言っている。		
					1	日常の立ち振る舞いと教育環境の整備を意識して職務に取り組めた教員が、50%未満であった。		1	生徒・保護者アンケートで、教員が正しい言葉遣いで生徒指導を行っていると言っている人が、65%未満であった。		
学校経営	教職員の働き方改革の推進	職務に対する優先順位を意識させる。	①会議や研修に端末を使用し、ペーパーレスを図る。 ②学校からの情報発信に学級、学校だより、Home&Schoolを効果的に運用する。 ③水曜日を定時退勤推奨日とする。 ④部活動顧問を複数とし、平日休日ともに負担を軽減する体制をとる。	3	4	80%以上の教員が、職務の見通しとライフワークバランスを意識して職務に取り組めた。	3	4	保護者アンケートで、80%以上の人が、学校は積極的に情報発信していると言っている。	・授業だけでなく、生徒や保護者の対応など忙しいと思う。教職員・学校のことを保護者も一定の理解をし、学校は地域や大人の力を使って頂けたらと考える。 ・少しでも先生方の負担がなくなり、健康で楽しんでいることが生徒に伝わるものです。無理のない楽しい学びの場であることを願っている。	・教職員の働き方改革は、全体的には推進できているが、長時間労働になる教職員もいるので改善を促す必要性はある。会議や研修等のペーパーレス化は年々進み、端末中心となっている。 ・情報発信についてはホームページ、Home&School、学校・学年・学級だより等、学校の情報を積極的に発信している。これからも継続していく。
					3	65%以上の教員が、職務の見通しとライフワークバランスを意識して職務に取り組めた。		3	保護者アンケートで、65%以上の人が、学校は積極的に情報発信していると言っている。		
					2	50%以上の教員が、職務の見通しとライフワークバランスを意識して職務に取り組めた。		2	保護者アンケートで、50%以上の人が、学校は積極的に情報発信していると言っている。		
					1	職務の見通しとライフワークバランスを意識して職務に取り組めた教員が、50%未満であった。		1	保護者アンケートで、学校は積極的に情報発信していると言っている人が、50%未満であった。		